

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 (有)オブジェチーボ

1 事業の趣旨・目的

日本語をある程度話せるブラジル人を対象。日常生活や仕事に役立つ日本語の読み書き、漢字の習得を目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月5日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	日本語教室開催に向けて①	・受講生の募集方法 ・開催日程の作成 ・運営経費について ・講師の選出 ・使用教科書・教材の検討
6月19日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕 知念カヨコ	日本語教室開催に向けて②	・カリキュラムの作成 ・使用教科書・教材の決定 ・受講者の申し込み状況
7月31日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕 知念カヨコ	中間報告会①	・講座の進捗状況 ・受講生の様子を聞く
10月2日	(有)チアホーザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる	中間報告会	・講座の進捗状況をふまえ後半のカリキュラムの調整など

		影山登美子 菊田 千秋 影山 裕 知念カヨコ		・使用教科書・教材の確認 補充の必要性など
2月12日	(有)チアホー ザ内	知念 幸枝 知念ヨシオ 鈴木かおる 影山登美子 菊田 千秋 影山 裕	事業終了報告会	・学習目標の達成状況 ・学習者の日本語能力習 得結果 ・事業の成果、反省点 ・運営経費報告

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称
『ブラジル人のための読み書き漢字教室』
- ② 開催場所
(有)チアホーザ保育所内空き教室
- ③ 学習目標
日本語をある程度話せるブラジル人を対象。日常生活や仕事に役立つ日本語の読み書き、漢字の習得を目的とする。
- ④ 使用した教材・リソース
・みんなの日本語初級 I 漢字練習帳
・書いて覚える文型練習帳、
・オリジナル教材(漢字カード、動詞カード等)
- ⑤ 受講者の募集方法
教室の開催場所である保育所の送迎用バス数台にポスターを貼って告知。
また、保育所の子どもたちにチラシを持たせて保護者等に告知。
- ⑥ 受講者の総数 19人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 ブラジル 19人)

⑦ 開催時間数(回数) 60時間 (全 20回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月17日 9:00~12:00	3時間	8人	ブラジル ポルトガル語 (8人)	教授者2人	開校式 日本語能力チェック
②	7月31日 9:00~12:00	3時間	12人	ブラジル ポルトガル語 (12人)	教授者2人	・みんなの日本語初級 I 漢字練習帳 (漢数字一~十) (以下漢字練習帳とする) 単語を使った作文
③	8月7日 9:00~12:00	3時間	8人	ブラジル ポルトガル語 (8人)	教授者2人	・漢字練習帳 (目手足口耳) 数え方・時間の表現
④	8月21日 9:00~12:00	3時間	9人	ブラジル ポルトガル語 (9人)	教授者2人	・漢字練習帳 (上中下/山川水火) 数を使った作文 形容詞の表現
⑤	8月28日 9:00~12:00	3時間	11人	ブラジル ポルトガル語 (11人)	教授者2人	・漢字練習帳 (石虫右左木林森田) 比較級・最上級の表現
⑥	9月4日 9:00~12:00	3時間	4人	ブラジル ポルトガル語 (4人)	教授者2人	・漢字練習帳 (大きい小さい犬貝) ④⑤の復習テスト
⑦	9月11日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10人)	教授者2人	・漢字練習帳 (男女王子力入る出る立つ) 疑問詞の作文
⑧	9月18日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10人)	教授者2人	・漢字練習帳 (空月糸見る) 時間表現 ヒアリング 書道体験
⑨	9月25日	3時間	6人	ブラジル	教授者2人	・漢字練習帳

	9:00~12:00			ポルトガル語 (6人)		(赤白青) 状態表現 作文・ヒアリング
⑩	10月2日 9:00~12:00	3時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6人)	教授者2人	・漢字練習帳 (玉お金円千百) 格助詞
⑪	10月16日 9:00~12:00	3時間	8人	ブラジル ポルトガル語 (8人)	教授者2人	・漢字練習帳 (日夕名早い) 格助詞 体の名称・病気の表現
⑫	10月23日 9:00~12:00	3時間	7人	ブラジル ポルトガル語 (7人)	教授者2人	・漢字練習帳 (町車人村天気雨音) 格助詞 店での会話実践練習
⑬	11月13日 9:00~12:00	3時間	10人	ブラジル ポルトガル語 (10人)	教授者2人	・漢字練習帳 (字本分正しい先生学校 一年生) 格助詞テスト
⑭	11月20日 9:00~12:00	3時間	9人	ブラジル ポルトガル語 (9人)	教授者2人	・漢字練習帳 (花草土竹) ・文型練習帳 動詞(現在・過去形)
⑮	11月27日 9:00~12:00	3時間	6人	ブラジル ポルトガル語 (6人)	教授者2人	・漢字練習帳 (月火水木金土休み) ・文型練習帳 動詞カードを使った作文
⑯	12月4日 9:00~12:00	3時間	9人	ブラジル ポルトガル語 (9人)	教授者2人	・漢字テスト ・文型練習帳 動詞(て形)
⑰	12月11日 9:00~12:00	3時間	11人	ブラジル ポルトガル語 (6人)	教授者2人	・文型練習帳 動詞(て形の過去形) ・聞き取り学習(ヒアリ ングしてひらがなに書き とり漢字に変換)
⑱	1月8日 9:00~12:00	3時間	7人	ブラジル ポルトガル語	教授者2人	・漢字カード (ひらがなの文を漢字に

				(7人)		なおす、いろんなグループ分け) ・動詞カード 動詞を使った作文練習、 日本の年末年始について
⑱	1月15日 9:00~12:00	3時間	9人	ブラジル ポルトガル語 (9人)	教授者2人	・漢字練習帳 ・文型練習帳 【総まとめ】 今まで学習した表現・漢字を使って長文作成、いくつかの短い文を作り繋げる、皆の前で発表し互いに評価する学習
⑳	2月5日 9:00~12:00	3時間	13人	ブラジル ポルトガル語 (13人)	教授者2人	終了式 意見交換会 日本語で話す懇親会

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

【第8回 9月18日(土)】

目標：漢字の正しい書き方を学ぶ

内容：第2回目より漢字の学習を始めた。しかし、皆同じようなところで間違った書き方をしていた。漢字学習の手本の書き方を見ながら書いているが、手本の漢字を形として認識し書いていた。つまり見本の印刷文字は明朝体で筆で書かれた字のため、硬筆で書くと入筆のところや角、ハネの部分あり、それが一画であるかのように皆はそのまま書き写していた。そこで、実際に筆で書き手本を見せたところ理解が深まったので受講生にも書道を体験してもらった。筆を持つことは当然初めての体験で緊張しながらも、楽しく、記念となる授業となった。また、筆文字と硬筆文字の違いも実感してもらうことができ、次回からの漢字学習に役立てることができた。



【第 ～ 回 月 ・ ・ 日 (土)】

目標：格助詞を正しく使って作文をする

内容：文章を作るときに外国人が躓く点として挙げられるのは「て、に、を、は」等の格助詞の使い方である。まずは何も学習せずどのくらい理解しているのか、どこを間違えるのかをテストで確認した。その結果を元に、間違いやすいところを重点的に、いろいろな例文を使って詳しく説明し繰り返し学習した。3回目の学習を終える頃にはかなり間違いの数が減り、理解も深まったようだった。

【第 回 月 日 (土)】

目標：動詞の使い方を理解して作文をする

内容：まずは自分の知っている動詞を使って、過去形や未来形にする学習をした。

種類ほどの動詞カード（イラスト入り）を用意して皆に配り、自分の手持ちのカードを使って作文し発表してもらう。ペアになって互いに発表し、できたらカードを交換する。持っている動詞の種類がどんどん変わっていくので数多くの動詞活用の学習ができた。受講生の中には、今回初めて日本語教室に参加という人もいた。しかし、カード学習で楽しみながら学ぶことで、普段日本語を話す機会が少ないにも関わらず、自信がついたようでとても嬉しそうだった。





⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
知念カヨコ	ポルトガル語 (ブラジル)	23年	30回	通訳
知念ヨシオ	ポルトガル語 (ブラジル)	23年	3回	アドバイザー
根路銘和江	ポルトガル語 (ブラジル)	23年	2回	補助
田尻ミュキ	ポルトガル語 (ブラジル)	20年	2回	補助

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語 教育に関する資格	参加回数	当該教室での 役割
高橋 仁	無	日本語能力検定2級	2回	アドバイザー
宮平リリアン	無	日本語能力検定3級	2回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

初歩的な日本語の会話ができるブラジル人を対象に「日本語および漢字の読み書きに親しむ」という点に目標を置き講座を開始した。継続して講座に通えた受講者は、ひらがな、カタカナ、漢字80字の学習を終了した。漢字のテキストは3段階(80字、160字、200字)用意したが、今回は1段階までとなった。書道のデモンストレーションにより、明朝体とゴシック体の違いがなぜあるのかを実際に筆を持ち体験することで学んだ。また、年賀状や誕生日のお祝いカードの書き方、チラシの読み方などを学習した。

受講者のうち3人が「日本語能力検定試験N5レベル」を受験し1名が合格したこ

とは受講者全員の学習意欲の向上につながった。

② 学習者の習得状況

最終回に近づくにつれ、漢字テストでは講座で学習した80字の漢字をほとんどの生徒が書くことができた。ひらがなの文章からの漢字への変換も正しくできるようになった。

書く姿勢や鉛筆の持ち方から指導したので、正しい書き順で何度も練習することで今までの間違いが直り、当初に比べかなり整った字を書けるようになった。

また漢字カードや動詞カードを使った作文練習でも、自分のことや家庭での出来事などを当てはめながら文章を作成することができるようになった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

漢字学習への関心はとて高く、今回の講座ではマスターした80字より多くの漢字を覚えたいという意欲が見受けられた。そして使い方の過ちを正すことは受講生の満足につながり、達成感と今後の継続的な学習への意欲が持てる結果となったと思う。

親子で参加している人もおり、ともに日本語の学習をする楽しさを感じていたようでモチベーションも高かったように思う。また「自分の子どもは日本語ができるので、自分もできるようになりたい。」と、日本に来て数年が経っていながら日本語がわからない親にも日本語を学びきっかけを与えることができた。

受講者からこの教室の情報を聞いた市内の派遣会社から、ブラジル人向けの社員教育の依頼があった。内容は、「打合せやミーティングに参加できるレベル」として、職場で必要とする基礎的な言葉（確認・危険・不良品・検査）や会話（病気や欠勤・遅刻・早退の申し出）を教えて欲しいというものであった。

このように、日本語教室の運営は受講者だけでなく、その家族や周囲の人々、近隣企業にも良い影響が及びその効果が得られるものであったと思う。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

磐田市生活文化部共生社会推進課に講座の開催を伝えた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

- ・ 今回の受講者や受講者の親から、親子で参加できるコースが良いという要望があった。親が日本語ができないと、子どもが学校で日本語を習ってきても家庭内で日本語を話す機会がなく、学習内容や進捗度が把握できないとのことである。このように子どもの学習内容を理解したいと思っている親が多いことがわ

かった。子どもにとっても、親に成果を理解してもらえの方が学習意欲が上がると思う。

- ・受講生や希望者の中には、週末では通えない人も多く、また仕事が不規則な場合、せっかく通い始めても現状の曜日・時間帯に通えなくなることもあった。個人レッスンを受ける経済的余裕がある人は少なく、結局学習を継続できなくなってしまう。

b. 今後の課題

- ・親が子供の学習内容や進捗度、達成度を把握できるよう、親への支援をすること。
- ・仕事を持って継続的に通えるよう、教室の開催曜日や時間帯等を工夫すること。

c. 今後の活動予定, 展望

- ・親子で学べる教室の開催

週末のコースは日常生活における身近な日本語会話や小学生レベルの読み書きを学習する内容にし、親子で楽しく学べる内容にしたい。親子で学習する内容を共有できることは親子に安心感を生み、家庭での復習の機会も増え学習効果も高まると考えている。

- ・平日夜間コースの開催

土曜日に参加できない人のために平日の夜間コースも検討している。大人を対象に、日本の習慣やマナーを学んだ上で、正しく日本語を習得するカリキュラムにしたいと考えている。

その他、受講者の就労先である企業と連携した講座開設などにも取り組みたい。

③その他参考資料

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。